

立山たちやまの賦ふ一首 并あはせて短歌たんか

四〇〇〇番

天あまざか離りる 鄙ひなに名なかかす 越こしの中なか 国内くぬちことごと
山やまはしも しじにあれども 川かははしも さはに行ゆ
けども 皇神すめかみの 領うしはきいます 新川にひかはの その立たち
山やまに 常夏とこなつに 雪降ゆきふり敷しきて 帯おばせる 片貝川かたかひがはの
清きよき瀬せに 朝あさ夕ゆふごとに 立たつ霧きりの 思おもひ過すぎめや
あり通がよひ いや年としのはに よそのみも 振ふり放さけ
見みつつ 万代よろうよの 語かたらひぐさと いまだ見みぬ
人ひとにも告つげむ 音おとのみも 名なのみも聞ききて とも
しづるがね